

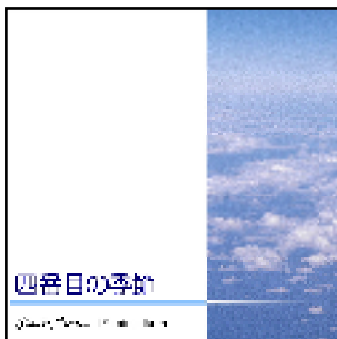
Studio Aurora Letters

May 2003 vol. **1**

Introduction

このペーパーを手にとっていただいて、ありがとうございます。
Studio Aurora は、TAK と S.Karino の 2 人で約 1 年間の音楽サークル活動を続けてきました。その間の制作CDはオリジナルインストゥルメンタルのミニアルバム 2 枚とまだまだ少ないですが、「憂い」と「グルーヴ」を合い言葉にどんどん良い曲を作っていると思います。これからもよろしくお願いします。

Discography



1st ミニアルバム 「四番目の季節」 2002/8 発表 3曲収録 CD-R 100円

サークルの第一作は、「青」い透明感をイメージしたミニアルバム。優しいメロディラインを緩やかなグルーヴに載せたイージーリスニング「遠い旅路」、ファンタジックなピアノ曲「時の守り樹」、そして表題曲のポップで憂いのある四つ打ち「四番目の季節」を収録。親しみやすい一枚です。



2nd ミニアルバム 「夕映に飛ぶ鳥」 2002/12 発表 3曲収録 CD-R 100円

第二作目は、「赤」く燃えるスピリチュアルな楽曲に挑戦。ひとつのテーマメロディを3つにアレンジしました。空気感のある穏やかな「忘れられた都」から、無国籍風・変拍子ありの熱い「夕映に飛ぶ鳥」にノンストップで展開。そして終幕は哀愁のピアノソロ「在りし人の夢」。とがった一枚です。

3rd ミニアルバム 「翠」 (仮題)

第三作目は、「白」「緑」をイメージして制作中。これまでの雰囲気を残しつつ、さらに違った楽曲構成に挑戦しています。制作遅延、ごめんなさい。

Voice

TAK - 作曲、アレンジ、エンジニアリング担当

初めての方は初めまして。そうでない方はこんにちは。TAK です。M3 で私たちのブースに来てくださった方々、本当にありがとうございます。とても励みになります。これからも宜しくお願いします！

さてさて、今回はなぜ私が作曲なんぞを始めたかについて軽くお話ししたいと思います。ことの始まりは1999年の夏コミであります。その頃、オタクの間では"Kanon"というゲーム（説明不要ですね）が流行していましたが、その音楽を担当された折戸伸治氏が主催されている音楽サークルがどうやらあるらしい、夏コミで新譜を発表するらしいということで、折戸氏のサークル"Unison LABEL"のブースを訪れました。音楽系と言えば、その当時はそれほど人気の無かったジャンルだとたかをくくっていました。しかし、そこには長蛇の列があるではないですか！音楽ジャンルってこんなにホットなジャンルだったんだ。自分もやってみたい！そしてあのサークルの人達と活動したい！コミケが終わるとすぐに Come on music Recomposer という音楽ソフトを買い、当時使わずに埃を被っていた Roland SC-88Pro をフル活用してひたすら耳コピやカヴァーをやり続けていました。その後、Unison LABELに参加していた某氏と、僅かの間ですが、共に活動させて頂く機会を得ることが出来、現在に至るというわけですね。今ではオリジナルのみで活動中ですけど、またゲーム音楽のカヴァーをやるかも知れません。ゲーム音楽そのものを作るなんて事も…。とにかく気の赴くままに活動が続けようと思っています。では、今回はこれにて。

P.S. 3rd ミニアルバムは諸般の事情により M3 に間に合いませんでした。ゴメンナサイ。

S.Karino - 作曲、文章、デザイン担当

S.Karino こと、狩野しおんです。Studio Aurora に興味を持ってくださってありがとうございます。私が TAK さんに出会い同人の道に引き込まれてから 3 年半が経ちます。最初に一般参加したイベントはこの M3 でした。隅田川沿いのビルの会場で私は音楽サークルの熱気に出会い、そこで手にした CD に込められた情熱に圧倒されました。こうしてサークルとして M3 に参加し、自分たちの曲を発表するまでたどり着いたことには何とも言えない思いがあります。その時目標としたサークルさんはもはや遙かな高みにあります。私達も一歩でも近づけたらというのが願いです。

私は作曲こそするもののアレンジの腕はまったくの未熟でして、TAK さんにアレンジを任せきりの状態です。私たちの CD 制作はこんな流れで行なわれます。まず 2 人でコーヒー等を飲みながら曲の大まかなイメージを話し合い、私が曲を書く。次にネット上あるいは直接会って TAK さんに批評をもらい、曲の手直しとアレンジの方向を確認して TAK さんがアレンジをする。最後に、私がアレンジされた曲をもとに文章を起こしながら CD のデザインワークの作業をし、TAK さんがミックスに入りそれぞれ完成させる。文章書きでもある私にとり、このアレンジされた自分の曲についてイメージを膨らませ文章を書き起こす、という作業はとても楽しいものです。作られた文章は TAK さんの意図とはまったく関係なく書かれていますが、自分のイメージを音と文の2つの方法を使って伝えられる、その自由を許してくれる TAK さんには感謝しきれません。

今後も M3 とコミケを中心にイベント参加をしながら、年に 2 枚程度の CD を出すことを目標にサークル活動を続けようと思っています。見かけたらぜひスペースに立ち寄ってくださいませ。

EZY05431@nifty.ne.jp
<http://homepage2.nifty.com/j-takezawa/>

TAK

Studio Aurora
Letters vol. 1

CBL07988@nifty.com
<http://homepage1.nifty.com/kanoh/>

S. Karino

2003/5/4